「出題の意図」

選抜区分	２０２３年度　（選抜区分：一般前期） 文学部人間関係学科　（科目名：小論文）
出題の意図 **（評価のポイント）**	１．各設問の出題の意図及び問１の解答例 問１　読解についての設問 　この文章の中で書かれている筆者の見解を的確に読み取って要約できる力を見ている。 解答例 　かつての時代では、人名は社会の中での個人をアイデンティファイする社会的コードであり、それゆえに社会的な習わしや規範に即したものであったが、近年、子育てを支えていた近隣共同体の相互交流や相互扶助が失われ、子育てが近隣共同体とのつながりから切り離された親の個人的な営みとなったことで、人名も、他人には読めず、社会に開かれていない、純粋な親子間の愛着的な思い入れにのみ基づくものへと変化していったため。(198 字) 問２　小論文 　筆者は「あらためて自分たちの共同的な世界の再構築」という課題を提起している。この小論文では受験生にはこの「共同的な世界の再構築」が可能であるかと考えるか、困難であると考えるか、いずれかの立場を選択し、そのための具体的な取り組みや支援の方法を、論理的に説得力をもって表現できる力を評価することをねらいとしている。なお、可能である場合と困難である場合のそれぞれについて両方記載していても可とし、評価した。

	２．受験生への情報提供 問１ 解答の傾向 　キラキラネームが誕生してきた社会的背景については多くの受験生がまとめられていたが、人名のもつ意味が「個人をアイデンティファイする社会的コード」から「社会に開かれていない、純粋な親子間の愛着的な思い入れにのみ基づくもの」へと変化した点を社会の構造的な変化と関連づけてまとめた答案はほとんど見られなかった点が少し残念であった。 問２　解答の傾向 　孤立の背景についてはよく考察されているが、解決策にあまりふれられていない解答が見られた。課題の取り組みや解決策としてSNSを挙げているものが非常に多かった。問題文中に筆者による原因分析があるため解答がその域を出ないものが大半であった。問いの「共同的な世界を再構築」することを追求できた解答があまり見られなかった。 　ボランティアなどの経験がある受験生も、社会的孤立や貧困などの社会問題について、系統的に学び、考える機会があまりなかったのではないかと思われる解答が多かった。 　また、自分の用意した論を無理にあてはめようとして、問題文の主旨がつかめていない解答や、途中で執筆そのものを断念している解答が散見された。問題文をしっかりと読み、何を問われているかを理解した上で、書く前に十分構成を考える必要がある。 　なお、いわゆるネット文章のようなものも見られ、原稿用紙の正しい書き方ができていない解答が数点あった。文章を原稿用紙に書く時の基本をふまえて試験に臨んでほしい。